

新型コロナウイルス感染拡大状況下でのアクティブラーニングはどうするか？

～皆様方の意見、提案をお寄せください～

2月末の突然の全国一斉休校要請。幼稚園に勤める卒業生は「午前中のうちに言え！」とFBで怒りの声。名古屋市小学校の非常勤講師はあわてて返却テストの採点に追われた。「教育の強制終了」と称した教師がいるほど、現場は対応に追われています。

さて、4月からの学校再開に向けて文科省が3月24日「令和2年度における小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における教育活動の再開等について（通知）」を出し、別添え資料として「新型コロナウイルス感染症に対応した学校再開ガイドライン」を示しました。

このガイドラインでは新型コロナウイルス感染症対策専門家会議が3月19日に示した提言を引きながら次のように注意喚起をしています。

『3つの条件が同時に重なる場』を避けるため、

- ①換気の悪い密閉空間にしないための換気の徹底
- ②多くの人が手の届く距離に集まらないための配慮
- ③近距離での会話や大声での発声をできるだけ控える

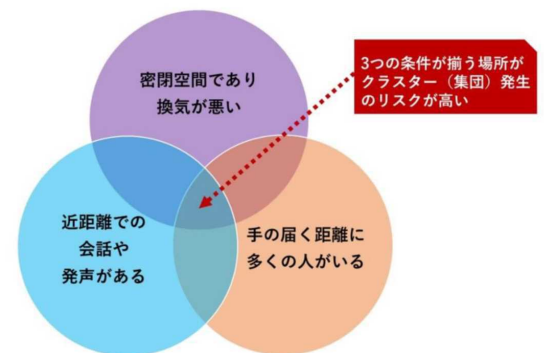
この一般論を受けて学校現場では以下の点の配慮を求めています。

(1) 換気の徹底

教室等のこまめな換気を実施すること（可能であれば2方向の窓を同時に開けること）。その際、衣服等による温度調節にも配慮すること。

(2) 近距離での会話や発声等の際のマスクの使用等

多くの学校においては人の密度を下げることに限界があり、学校教育活動上、近距離での会話や発声等が必要な場面も生じることが考えられることから、飛沫を飛ばさないよう、咳エチケットの要領でマスクを装着するなどするよう指導すること。



さて、そこで私は戸惑いました。4月から始まる看護専攻科2年生の「教育学」の授業です。今年度の授業は生徒による発表の後、2分間のグループにおける意見交換を行ったり、何回か私が課題を出してグループワークを行いました。でも、このガイドラインに抵触する点はないのか？という戸惑いです。

アクティブラーニングでは、課題を発見したり、解決したりする過程で個人が考え、その考えを交流して共有化しながら学びを深めていくことが必要です。「飛沫を飛ばさないよう」とされていますが、エアゾール感染の疑いも指摘されているなかでどうしてもためらいが出てしまいます。そこで4月からの授業では「鉛筆対談」という1950年代に開発された手法でいこうか、などと暗中模索をしています。大学4年生に行った教育実習（社会科・公民分野）で担任教師が「鉛筆対談」を導入しており、導入していない隣のクラスとの＜授業の積極性＞＜応答性＞に明らかな差を見てこの方法の有効性を確認した経験があります。

4月からの授業、みなさんはどのようにお考えですか？

考えやアイデアをお寄せください。